

「自分にフィットする作品と出会う幸福」

国語科 中川さと子

「さと子さんは絶対好きだと思うから読んでみて！ 4巻までは話がちょっと地味だし重たいけど、そこから一気におもしろくなるから！ まずは4巻まで！」

大学に入学して最初の秋、友人から1つのシリーズ長編を薦めてもらった。図書館でアルバイトするほど本が好きな友人のオススメなので、ぜひに、と思い貸してもらった。1か月もしない内に自分でも全18巻を買いそろえた。今や、誇張なく、一生手元に置いておこうと思う作品の1つになった。

茅田砂湖先生の『デルフィニア戦記』は、それくらい私と相性が良かった。4巻までは地味だし重たいと友人は言ったが、シリーズ長編の序盤は地固めが必須と分かっているのでまったく気にならなかったし、怒濤のように進まない物語展開がむしろ丁度良かった。個性豊かなキャラクターたちの軽快なやり取りは、何度読み返しても笑ってしまう。

一方で、実は、この先生の他の作品はほとんど読んでいない。『デルフィニア戦記』の一部の登場人物たちが活躍する別シリーズもあるのだが、あまり楽しんで読むことができなかった。不思議なことだが、読書をしていると時にこのようなことが起こる。みなさんの中でも本好きの人なら、同じような経験をしたことがある人がいるかもしれない。

自分にフィットする作品と出会えると、ただ読破したときとは異なる、読後の爽快感や充実感を得られる。これだから読書はやめられないと思う。私自身は、小学校高学年のころから雑読が始まり、高校を卒業するまでに自分にフィットする2つのシリーズと出会うことができた。1つが、新本格派の代表的な作家の1人である有栖川有栖先生のミステリー『火村英生シリーズ』。もう1つが、重厚な世界観が構築された小野不由美先生のファンタジー『十二国記シリーズ』だ。ふと既刊を読み返すと熱中でき、楽しく、新刊が発売されれば、神様からご褒美をもらった気分になる。昔に比べると読書に時間を割けなくなってしまったが、自分にフィットする作品を味わう時間は、今でも人生の楽しみの1つである。

この通信を書きながらこれまでの読書体験を振り返って、この3作品と出会えたことに、改めて有難い気持ちになった。特に『デルフィニア戦記』については、その友人と出会ってなければこの作品を読むことも一生なかったかもしれないと思うと、人との出会いと同じく、運命だと思わずにはいられない。

朝読の時間に、休み時間に、熱心に読書するみなさんの姿を見ながら、これからみなさんにも、自分にフィットする作品との出会いがあることを願うばかりだ。

(※ 『デルフィニア戦記』第1部「放浪の戦士」1巻～4巻まで、7月に購入予定です。)

☆5月までの貸出しは、平均2.3冊☆

5月までの生徒一人あたりの平均貸出状況です。昨年度は、1.8冊でしたので、とてもいいスタートが切れたと思います。学年別に見ると、1年 4.1冊 2年 1.8冊 3年 2.8冊

4年 2.1冊 5年 2.4冊 6年 0.6冊 です。

各学級の貸出冊数を教室の後ろに掲示してもらっていますが、それぞれの学年で一番貸出冊数が多かったクラスに金賞シールを、2番目に多かったクラスに銀賞シールを貼っています。(3番と4番は無し) ぜひ、他のクラスの様子ものぞいてみてください。

オススメの本

(2年生の保護者の方から4冊の本と皆さんへのメッセージをいただきました。4冊ともマンガで、とても読みやすいです。図書館の中央に置いてありますので、是非手にとってみてください。)

『この世界の片隅に』(上・中・下)『夕風の町 桜の国』

こうの史代【著】



戦中戦後の物語です。皆さんにとっては、遠い昔のことかもしれませんが、しかしそれぞれの物語を通して、登場人物たちの悲喜こもごもと向き合い、世界を広く深く見渡していく力を養ってほしいと思います。

また、今の価値観や倫理観をもって、過去を一方的に断罪するのではなく、その時代ならではの喜びを生き生きと描いているのも、本書の魅力です。悪いところばかりに目をやるのではなく、その時代ならではの希望を拾い上げていく、筆者のそうした前向きな姿勢もぜひ学んでほしいと思います。

(2年生の保護者より)

～新刊紹介～(皆さんから出してもらった購入希望の本は、6月に入荷する予定です。)

- | | |
|------------------|--------------|
| ○ 『同志少女よ敵を撃て』 | 逢坂冬馬【著】 |
| ○ 『正欲』 | 朝井リョウ【著】 |
| ○ 『星を掬う』 | 町田そのこ【著】 |
| ○ 『マスカレード・ゲーム』 | 東野圭吾【著】 |
| ○ 『水無月の許嫁』 | 友麻碧【著】 |
| ○ 『スイート・ホーム』 | 原田マハ【著】 |
| ○ 『クィディチ今昔(新装版)』 | J・K・ローリング【著】 |
| ○ 『イッカボッグ』 | J・K・ローリング【著】 |
| ○ 『香君』(上・下) | 上橋菜穂子【著】 |
| ○ 『剣持麗子のワンナイト推理』 | 新川帆立【著】 |
| ○ 『女のいない男たち』 | 村上春樹【著】 |

(本校の先生から『赤川次郎』の本をたくさん(25冊)寄贈していただきました。これも、読みやすいです。図書館の中央に置いてあります。)